

ボール運動及びボールゲームの指導における 困難性に関する小学校教員の意識調査

西原 昂志 ・ 米村 耕平* ・ 山野 萌**
(大学院教育学研究科) (保健体育) (高松市立仏生山小学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学大学院教育学研究科

*760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

**761-8078 高松市仏生山町甲2461 高松市立仏生山小学校

A Survey of Elementary School Teachers' Attitudes toward difficulty in teaching of Ball Game

Takashi Nishihara, Kohei Yonemura* and Moe Yamano**

Graduate School of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

***Busshozan Elementary School, 2461 ko Busshozan-cho, Takamatsu 761-8078*

要 旨 本研究の目的は、体育科のボール運動及びゲームの指導について、現場の教員が実際にどの点に困難性を感じているのかを明らかにすることである。香川県の小学校体育連盟に所属する教員を対象に、「体育指導及び運動に関する意識」「体育指導の方法」に関する質問紙調査を行った。その結果「体育指導及び運動に関する意識」は全体的に高い数値を示した。また、教職歴など教員の実態によって各項目の数値に差が認められた。

キーワード 体育授業や運動指導の意識 体育指導の方法 授業の勢い

I. はじめに

これまで多くの先行研究によって、小学校教師が体育授業を初等教育において重要な教科として捉え、その必要性も理解していること、体育・運動に対しても肯定的に捉えていることが明らかになっている(大友・群馬県小学校研究会調査委員会, 2006; 小河内ほか, 1999)。一方で、特別に指導の難しい教科だとは感じていないものの、「教科の特性ともいべき指導上の独特の困難性」があること(下條ほか, 1996)、教科の特性や理解、何を教えるのか、どのように教えるのかについてあまり自信がないことなどが指摘されている(小河内ほか,

1999, 庭木ほか, 1994)。

その中でも、ボール運動及びゲームの領域は、吉永・馬場によるシンポジウム報告(2009)において「体育の授業の中でも児童が意気揚々と取り組む活動であるといわれる。しかしながら、すべての児童がボール運動の授業に満足しているわけではなかった。目まぐるしく攻守が入れ替わるゲーム状況の下で、自分がどのようなプレー選択を行えばいいのかわからず困惑している児童もいれば、パスやシュートなどの技術を習得しても、実際のゲームになるとそれらをうまく活用できない児童もいた。また、作戦づくりを授業の中核に据えたゲーム中心の授業が繰り返される傾向もみられるが、立案された

作戦が実際のゲームで効果的に遂行されるケースは少なかった。その結果、児童のゲームパフォーマンスが向上せず、学習意欲の低下を招くこともしばしみられた」とボール運動授業の難しさが指摘されている。大貫(2008)は「小学校低学年で扱うボールゲーム教材では『すべての子ども』に基礎的技術や戦術を獲得させることにむずかしさを感じてきた。2006年の報告でも器械運動や水泳ではクラスの子どもたち全員が上手になっていくのに、ボールゲーム教材ですべての子どもたちを上手にすることはむずかしい」と述べている。

こうした状況を受けて、小学校において体育授業の質を保証していくためには、現職小学校教師が体育科教育の知識や教授技術の獲得といった体育授業の専門性を高めること、もしくは専門性がなくとも授業成果を保証できるように支援することが求められる。

しかし、教師が実際にどのようなボール運動及びゲームの授業を行っているのか、指導上のどのようなことに難しさを感じているのかは十分に明らかにされていない。そこで、本研究では、体育を専門とする小学校教員がボール運動及びゲームの授業実践をどのようなことに留意して取り組み、それをどう評価しているのかという視点から基礎的意識調査を行い、ボール運動及びゲームの指導に教員がどのような難しさを感じているのかを明らかにし、ボール運動及びボールゲーム指導の困難性の解決方策を検討する一助とすることを目的とする。

II. 方法

1. 調査対象

香川県内の小学校体育連盟(以下、小体連)に所属しているT市及びM市の体育部の教員を対象に、質問紙調査を実施した。

2. 調査期間

2017年12月末に、小体連に所属するT市とM市の教員へ調査用紙の配布を行い、調査用紙の回収は2018年1月10日までに行った。173

名に配布し、131名からの回答を得た(回収率75.7%)。

3. 質問紙の作成

教員の体育授業の意識とボール運動・ボールゲームの指導を明らかにするために、体育部の教員を対象としたボール運動及びゲームの体育授業において教師が感じる指導の困難性に関する調査票を作成した。質問紙を作成するにあたり、群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友(2006)、鬼澤ら(2016)で用いられた項目を参考にした。これら質問紙調査の主な調査項目は「体育指導に関する意識(14項目)」「指導上の留意点(20項目)」および「指導の自己評価(10項目)」であった。本研究ではそのうち44項目を適用し、新たに「指導の自己評価」に1項目「私のボール運動及びゲームの授業では、ゲーム結果における各チームの勝因と敗因について説明できる。」を追加して、全45項目とした。調査項目は以下の通りである。

①小学校体育連盟に所属している教員の基本的属性

設問1では、小体連に所属している教員の基本的属性について「教職歴」「性別」「体育部に属している年数」「中学校、高校、大学を通して3年以上所属していた部活動」「大学での体育専攻の有無」の項目を設定した。そして、教職歴と体育部に所属している年数の区分については、「10年未満」の教員、「10年以上20年未満」の教員、「20年以上30年未満」の教員、「30年以上」の教員とし、4つの区分を設定した。

②体育授業や運動指導に関する意識について

設問2では、小学校体育連盟に所属している教員の体育授業や運動指導に関する意識について取り上げた(計14項目)。鬼澤らの使用した14項目をそのまま適用しようとしたが、そのうちの3項目は、低学年を担当している教員へ向けた質問であったため、「私は、体育授業は重要だと考えている。」「私は、体育の授業には、体育の専門性が重要だと考えている。」「私は、体育の授業には、児童理解が必要だと考えている。」と修正した。回答は、「あてはまる」「や

やあてはまる」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の4件法にて求め、それぞれ4点、3点、2点、1点とした。設問2の全14項目の結果を考察する際の枠組みとして、質問の内容から「体育の重要性」「運動に対する意識」「運動指導の自己評価」「体育授業・運動指導に関する理解」「指導力を高める意欲」「体育に対する認識」の6つに分類した(表1)。「子供の活動への共感」は設問3の項目だが、「体育授業や運動指導に関する意識」として考察した。

③体育指導に関する指導上の留意点および体育指導に関する教師の自己評価について

設問3では、「体育指導に関する教師の指導上の留意点」について、設問4では「体育指導に関する教師の自己評価」について取り上げた。その分類を表2に示す。質問項目設定の大きな枠組みは、西森(1999)の「授業づくりの『設計』『実施』『評価』の3つの過程」を採用した。その中の枠組みは鬼澤らの枠組みを適用した。指導の実態を明らかにするために、「効果的学習」の中に教師のボール運動及びゲームの指導内容に関する知識を問う「私のボール運動及びゲームの授業では、ゲーム結果における各チームの

勝因と敗因について説明できる。」という新たな質問項目を追加した。その結果、設問3では計20問、設問4では計11問となった。

Ⅲ. 結果と考察

1. 小学校体育連盟に所属する教員の実態

小学校体育連盟に所属する教員の実態については表3に示す。小学校体育連盟に所属している教員の教職歴をみると、「10年未満」の教員が47%、「10年以上20年未満」の教員は23%、「20年以上30年未満」の教員は11%、「30年以上」の教員は19%であった。これより、小体連に所属している教員は、20年未満の教員が7割程度を占め、20年以上の教員が少ないことが分かった。性別は、男性が70%、女性が30%と男性の割合が高かった。また、所属していた大学の学部での体育の専攻は、専攻ありが58%、専攻なしが42%と大きな差は見られなかった。体育部に属する年数は、10年未満が53%、10年以上20年未満が20%、20年以上30年未満が12%、30年以上が15%であり、長く体育部に所属している教員が少ないことが分かった。中学校、高

表1. 「体育授業や運動指導に関する意識」に関する質問項目とその枠組み

枠組み	質問項目
体育の重要性	私は、体育を大切な強化と考えている。
運動に対する意識	私は、運動が好きだ。
	私は、運動が得意だ。
運動指導の自己評価	私は、運動を教えるのが得意だ。
	私は、体育の授業を見せることに抵抗を感じない。
体育授業・運動指導に関する理解	私は、良い体育の授業のイメージを持っている。
	私は、できなことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。
	私は、そのポイントを指導するための工夫(手立て)が分かっている。
指導力を高める意欲	私は、体育の教師用資料などを活用している。
	私は、体育の研究に参加したいと思っている。
体育に対する意識	私は、体育の研修に進んで参加している。
	私は、体育の授業は重要だと考えている。
	私は、体育の授業には、体育の専門性が必要だと考えている。
子供の活動への共感	私は、体育の授業には、自動理解が必要だと考えている。
	私は、児童ができたことを自分のことのように喜ぶ。
	私は、児童と一緒に体を動かすように心がけている。

表2. 「体育指導に関する指導上の留意点」および「体育指導に関する教師の自己評価について」の質問項目とその枠組み

枠組み		質問項目
設計	単元計画	私は、単元計画を作成して授業を行っている。
		私は新しい単元に入る前には、児童の実態把握を欠かさずしている。
	授業計画	私は子どもが体を動かす時間を多くとっている。
		私は、子どもが「教え合う」や「励まし合う」活動を意図的に設定している。
		私は、準備や片付けを工夫している。
		私は、学習目標をはっきり設定している。
		私は、分かりやすい説明を行っている。
実施	学習環境	私は、楽しく学習できるような運動（教材、場づくり、学習課題）を用意している。
		私は、学習成果を生み出すような運動（教材、場づくり、学習課題）を用意している。
		私は、学習資料（学習ノート、カード）を有効に活用している。
	教師の相互作用	私は、心を込めて児童に関わっている。
		私は、ほめたり、励ましたりする活動を積極的に行っている。
		私は、適切な助言を積極的に与えている。
	意欲的学習	私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが意欲的に学習に取り組んでいる。
		私のボール運動及びゲームの授業では、子どもの笑顔や拍手、歓声などがみられる。
		私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが自ら進んで学習している。
	効果的学習	私のボール運動及びゲームの授業では、子どもの上達していく姿がみられる。
		私のボール運動及びゲームの授業では、子ども同士が、積極的に教え合っている。
		私のボール運動及びゲームの授業では、ゲーム結果における各チームの勝因と敗因について説明できる。
		私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが何を学習し、何を身につけようとしているのかがよく分かる。
	授業の勢い	私のボール運動及びゲームの授業では、授業の約束が守られている。
		私のボール運動及びゲームの授業では、移動や待機の場面が少ない。
		私のボール運動及びゲームの授業では、授業の場面展開がスムーズに行われている。
	総合評価	私のボール運動及びゲームの授業は、「よい体育授業」である。
	苦手な子への対応	私はボール運動及びゲームを苦手とする児童に対して、積極的に声をかけるように努めている。
		私は、運動が苦手な児童も楽しく活動ができるように心がけている。
		私は、子どもの「めあて」をいつもチェックして学習を進めている。
評価	授業評価	私は、児童からの授業評価を重要視している。
	学習効果	私は、毎時間、評価簿を記入している。

表3. 小学校体育連盟に属する職員の教職歴及び性別, 体育専攻の有無, 体育部に属する年数, 3年以上所属していた部活

n = 131		
教職歴	10年未満	47%
	10年以上20年未満	23%
	20年以上30年未満	11%
	30年以上	19%
性別	男	70%
	女	30%
大学での体育専攻	専攻あり	58%
	専攻なし	42%
体育部に属している年数	10年未満	53%
	10年以上20年未満	20%
	20年以上30年未満	12%
	30年以上	15%
3年以上所属していた部活	ゴール型種目	25%
	ネット型種目	24%
	ベースボール型種目	21%
	その他運動部	23%
	文化部またはなし	7%

表4. 「体育授業や運動指導に関する意識」についての全教員の平均

	平均
体育の重要性	3.91
体育に対する意識	3.68
体育授業・運動指導に関する理解	2.86
指導力を高める意欲	3.07
私は、体育の研修に参加したいと思っている。	3.28
私は、体育の研修に進んで参加している。	2.82

等学校, 大学を通して3年以上所属していた部活動については, ゴール型が25%, ネット型が24%, ベースボール型が21%, その他運動部が23%, 文化部または無しが7%であり, ほとんどの教員が運動部に所属していたことがうかがえる。小学校体育連盟に所属している教員の「体育授業や運動指導に対する意識」の実態について, 全体の傾向を明らかにするために, すべての回答 (n = 131) について検討した。さらに, 教職歴, 性別, 体育部に属している年数, 中学校, 高校, 大学を通して3年以上所属していた部活動, 大学での体育専攻の有無によ

る特徴を明らかにするために, 枠組みや質問項目の平均点を属性による比較検討を行った。

2. 小学校体育連盟に所属している教員の体育授業や運動指導に対する意識の実態

小学校体育連盟に所属している教員の「体育授業や運動指導に関する意識」について比較検討を行った。その結果は表4の通りである。どの枠組みも中央値 (2.50) より高く, 小学校体育連盟に所属している教員は体育授業への意識が高いことが分かる。特に, 「体育の重要性」(3.91), 「体育に対する意識」(3.68) が高い値

を示し、体育の重要性や運動や体育に対する意識は強く重要視していると考えられる。しかし「体育授業・運動指導に関する理解」(2.86)は相対的に低い値を示した。このことから、指導のポイントや手立てをよく理解していないまま授業を行っている可能性が考えられる。また、「指導力を高める意欲」の項目において、体育の研修に参加したいと考えている教員の数に対して、実際に参加している教員は少なかった。これらのことから、全教員において体育の研修に参加しやすくなるように支援し、「体育授業・運動指導に関する理解」を高める必要があると考えられる。

1) 教職歴別による特徴

教職歴による「体育授業や運動指導に関する意識」の特徴を検討するため、質問項目ごとに比較を行った。表5にその結果を示す。「体育の重要性」や、「運動に対する意識」に関しては教職歴関係なく高い値を示しており、運動に

対して好意的であることがうかがえる。「運動指導の自己評価」の項目において10年未満の教員(2.80)に対し、10年以上20年未満の教員(3.31)の数値が高かった。また、「体育授業・運動指導に関する理解」の項目において、10年未満の教員(2.66)に対し10年以上20年未満の教員(3.02)と30年以上の教員(3.08)が高い値を示した。そして、10年未満の教員と30年以上の教員は多くの項目においても比べて大きく差があり、教職歴が長いほど「体育授業や運動指導に対する意識」が高いことが分かる。しかし、「私は、良い体育の授業のイメージを持っている」の項目には差が見られず、どの年代の教員も授業に関してのイメージを持つことができていることが明らかになった。

2) 男女別による特徴

性別による「体育授業や運動指導に関する意識」の特徴を検討するため、質問項目ごとに平均値による比較を行った。その結果を表6に示

表5. 教職歴別による項目の比較

	①10年未満	②10年以上 20年未満	③20年以上 30年未満	④30年以上	F値	多重比較
運動指導の自己評価	2.80(0.67)	3.31(0.57)	3.10(0.66)	3.20(0.71)	4.79 *	①<②
私は、体育の授業を見せることに抵抗を感じない。	2.89(0.84)	3.52(0.63)	3.27(0.80)	3.32(0.90)	4.68 *	①<②
体育授業・運動指導に関する理解	2.66(0.61)	3.02(0.44)	3.02(0.48)	3.08(0.56)	5.37 *	①<②④
私は、良い体育の授業のイメージを持っている。	3.05(0.81)	3.38(0.49)	3.33(0.62)	3.20(0.58)	1.82	
私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。	2.46(0.65)	2.93(0.46)	2.87(0.52)	2.96(0.61)	6.91 *	①<②④
私は、そのポイントを指導するための工夫(手立て)が分かっている。	2.46(0.65)	2.76(0.69)	2.87(0.64)	3.08(0.70)	5.74 *	①<④

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

表6. 男女別による項目の比較

	男	女	t値
運動に対する意識	3.58(0.45)	3.44(0.63)	1.44
私は、運動が得意だ。	3.27(0.68)	3.00(0.86)	1.94 *
運動指導の自己評価	3.16(0.55)	2.72(0.86)	2.95 *
私は、体育の授業を見せることに抵抗を感じない。	2.98(0.69)	2.72(1.00)	3.55 *
体育授業・運動指導に関する理解	2.95(0.46)	2.66(0.76)	2.22 *
私は、良い体育の授業のイメージを持っている。	3.25(0.61)	3.03(0.84)	1.73 *
私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。	2.80(0.59)	2.49(0.88)	2.14 *
私は、そのポイントを指導するための工夫(手立て)が分かっている。	2.79(0.52)	2.46(0.79)	2.29 *
子ども活動への共感	3.27(0.58)	3.40(0.58)	-1.14
私は、児童ができたことを自分のことのように喜ぶ。	3.52(0.60)	3.69(0.47)	-1.75 *

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

す。「運動に対する意識」について差は見られなかったが、その中の「私は、運動が得意だ」という質問項目において女性教員（3.00）に対して男性教員（3.27）が高い値を示した。また、「運動指導の自己評価」の項目、「体育授業・運動指導に関する理解」の項目において、女性教員（2.72）に対して男性教員（3.16）が高い値を示した。つまり、男性教員は体育授業や運動指導に関する意識が高く、自分の指導に自信を持っていることが分かる。一方、「子ども活動への共感」の項目の「私は児童ができたことを自分のことのように喜ぶ」の質問項目で男性教員（3.52）よりも女性教員（3.69）が高い値を示した。児童への共感的な関わりに関しては、女性教員の方が重要視しており、自信を持って取り組んでいることが考えられる。

3) 体育専攻の有無別による特徴

体育の体育専攻別による分類し、「体育授業や運動指導に関する意識」の特徴を検討するため、項目ごとに比較を行った。表7にその結果を示す。「体育の重要性」の項目において体育を専攻していなかった教員（3.85）より専攻していた教員（3.96）の数値が高かった。また、「運動に対する意識」の項目とその中の「私は、運動が好きだ」「私は、運動が得意だ」「私は、体育の授業を見せることに抵抗を感じない」「私は、運動を教えるのが得意だ」の質問項目において、体育を専攻していなかった教員より専攻

していた教員の数値が高かった。また、「体育授業・運動指導に関する理解」の項目とその中の「私は、できないことをできるようにするための指導内容（ポイント）が分かっている」「私は、そのポイントを指導するための工夫（手立て）が分かっている」の質問項目において、体育を専攻していなかった教員より専攻していた教員の数値が高かった。多くの項目で今までに体育の専攻をしていなかった教員に対して専攻していた教員が高い値を示しており、特に「体育の重要性」「運動に対する意識」「運動指導の自己評価」「体育授業・運動指導に関する理解」の項目において今までに体育の専攻をしていなかった教員に対して専攻していた教員が高い値を示した。

4) 体育部の所属年数別による特徴

体育部の所属年数別によって「体育授業や運動指導に関する意識」の特徴を検討するため、項目ごとに比較を行った。その結果を表8に示す。「体育の授業・運動指導に関する理解」の項目において、10年未満の教員（2.68）に対し、10年以上20年未満の教員（3.03）と30年以上の教員（3.16）の数値が高かった。その中で、「私は、できないことをできるようにするための指導内容（ポイント）が分かっている」の質問項目において、10年未満の教員（2.50）に対し、10年以上20年未満の教員（2.92）と20年以上30年未満の教員（2.94）、30年以上の教員（3.00）

表7. 大学での体育専攻の有無別による項目の比較

	専攻あり	専攻なし	t値
体育の重要性	3.96(0.20)	3.85(0.36)	2.01 *
私は、体育は大切な教科と考えている。	3.96(0.20)	3.85(0.36)	2.01 *
運動に対する意識	3.68(0.37)	3.33(0.61)	3.68 *
私は、運動が好きだ。	3.95(0.23)	3.76(0.61)	2.15 *
私は、運動が得意だ。	3.40(0.68)	2.91(0.76)	3.87 *
運動指導の自己評価	3.17(0.66)	2.85(0.68)	2.65 *
私は、運動を教えるのが得意だ。	3.01(0.71)	2.76(0.70)	2.02 *
私は、体育の授業を見せることに抵抗を感じない。	3.32(0.84)	2.94(0.79)	2.57 *
体育授業・運動指導に関する理解	2.97(0.58)	2.71(0.56)	2.60 *
私は、できないことをできるようにするための指導内容（ポイント）が分かっている。	2.81(0.61)	2.57(0.63)	2.17 *
私は、そのポイントを指導するための工夫（手立て）が分かっている。	2.85(0.71)	2.48(0.63)	3.06 *

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

表8. 体育部の所属年数別による項目の比較

	①10年未満	②10年以上 20年未満	③20年以上 30年未満	④30年以上	F値	多重比較
体育授業・運動指導に関する理解	2.68(0.60)	3.03(0.43)	3.06(0.41)	3.16(0.60)	5.95 *	①<②④
私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。	2.50(0.65)	2.92(0.40)	2.94(0.44)	3.00(0.67)	6.28 *	①<②③④
私は、そのポイントを指導するための工夫(手立て)が分かっている。	2.47(0.65)	2.80(0.65)	2.94(0.57)	3.16(0.77)	6.72 *	①<④
体育に対する意識	3.00(0.47)	3.29(0.51)	3.31(0.55)	3.04(0.51)	3.26	
私は、体育の授業には、児童理解が必要だと考えている。	3.93(0.26)	4.00(0.00)	3.75(0.45)	3.84(0.38)	3.05 *	③<②

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

表9. 学生時代の部活動別による項目の比較

	①ゴール型	②ネット型	③ベース ボール型	④その他 運動部	⑤文化部 またはなし	F値	多重比較
体育の重要性	3.97(0.17)	4.00(0.00)	3.89(0.32)	3.87(0.35)	3.67(0.50)	3.32 *	③④⑤<①
私は、体育は大切な教科と考えている。	3.97(0.17)	4.00(0.00)	3.89(0.32)	3.87(0.35)	3.67(0.50)	3.32 *	⑤<①②
運動に対する意識	3.70(0.37)	3.47(0.41)	3.60(0.48)	3.54(0.42)	2.94(1.07)	4.45 *	⑤<①②③④
私は、運動が好きだ。	3.97(0.17)	3.94(0.25)	3.85(0.46)	3.90(0.31)	3.22(1.09)	6.51 *	⑤<①②③④
体育授業・運動指導に関する理解	2.94(0.50)	2.96(0.54)	2.84(0.49)	2.88(0.68)	2.26(0.66)	2.97 *	⑤<①②④
私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。	2.73(0.57)	2.84(0.58)	2.67(0.56)	2.77(0.68)	2.11(0.78)	2.59 *	⑤<②④
私は、そのポイントを指導するための工夫(手立て)が分かっている。	2.82(0.64)	2.74(0.63)	2.63(0.57)	2.80(0.76)	1.89(0.93)	3.77 *	⑤<①②③④
指導力を高める意欲	3.41(0.55)	3.08(0.58)	2.99(0.61)	2.91(0.60)	2.63(0.54)	4.89 *	③④⑤<①
私は、体育の教師用資料などを活用している。	3.52(0.62)	3.10(0.70)	2.93(0.62)	2.90(0.80)	2.89(0.60)	4.34 *	③④<①
私は、体育の研修に参加したいと思っている。	3.64(0.55)	3.26(0.63)	3.15(0.77)	3.20(0.66)	2.78(0.88)	4.03 *	③⑤<①
私は、体育の研修に進んで参加している。	3.09(0.81)	2.87(0.81)	2.82(0.82)	2.63(0.81)	2.22(0.67)	2.64 *	⑤<①
体育に対する意識	3.76(0.22)	3.73(0.29)	3.62(0.32)	3.62(0.38)	3.52(0.44)	1.78	
私は、体育の授業は重要だと考えている。	3.97(0.17)	3.94(0.25)	3.82(0.39)	3.77(0.57)	3.56(0.53)	2.90 *	⑤<①
私は、体育の授業には、児童理解が必要だと考えている。	3.91(0.29)	3.94(0.25)	3.89(0.32)	3.97(0.18)	3.67(0.50)	2.02 *	⑤<④
子ども活動への共感	3.30(0.64)	3.39(0.50)	3.34(0.55)	3.25(0.64)	3.17(0.61)	0.37 *	⑤<①

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

の数値が高かった。また、「私は、そのポイントを指導するための工夫(手立て)が分かっている」の質問項目において、10年未満の教員(2.47)に対し、30年以上の教員(3.16)の数値が高かった。このことから、体育部に属する年数が浅い教員について、指導ポイントや手立ての理解を図るような支援が有効であることが考えられる。一方、「体育に対する意識」の中の「私は、体育の授業には、児童理解が必要だと考えている」の質問項目において、20年以上30年未満の教員(3.75)に対し、10年以上20年未満の教員(4.00)が高い数値を示した。10年以上20年未満の教員は児童理解に関して重要視しており、20年以上30年未満の教員は児童理解を前提として、他の点を重要視している可能性が考えられる。

5) 学生時代の部活動別による特徴

学生時代に3年以上所属していた部活動別による「体育授業や運動指導に関する意識」の特徴を検討するため、項目ごとに比較を行った。その結果を表9に示す。「体育の重要性」の項目は、文化部または無し(3.67)に対し、ゴール型(3.97)とネット型(4.00)が高かった。また、「運動に対する意識」という項目において、文化部または無し(2.94)に対し、ゴール型(3.70)とネット型(3.47)とベースボール型(3.60)とその他運動部(3.54)が高い数値を示した。さらに、「体育授業・運動指導に関する理解」の項目において、文化部または無し(2.26)に対し、ゴール型(2.94)とネット型(2.96)とその他運動部(2.88)の数値が高かった。また、「指導を高める意欲」の項目において、文化部または無し(2.63)とベースボール

表10. 体育部に所属している教員の「体育指導の方法」の平均値

		平均
単元計画		2.60
	私は、単元計画を作成して授業を行っている。	2.62
	私は、新しい単元に入る前には、児童の実態把握を欠かさずしている。	2.56
教師の相互作用		3.29
	私は、ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っている。	3.54
意欲的学習		3.30
苦手な子への対応		3.23
	私は、運動が苦手な児童も楽しく活動ができるように心がけている。	3.45
めあての確認		2.48
	私は、子どもの「めあて」をいつもチェックして学習を進めている。	2.48
学習評価		1.92
	私は、毎時間、評価簿を記入している。	1.92

型(2.99)とその他運動部(2.91)に対し、ゴール型(3.41)の数値が高く、その中のすべての質問項目において差が見られた。さらに、「私は、体育の研修に参加したいと思っている」の平均値は、ベースボール型(3.15)と文化部または無し(2.78)に対し、ゴール型(3.64)の数値が高かった。また、「私は、体育の研修に進んで参加している」の平均値は、文化部または無し(2.22)に対し、ゴール型(3.09)の数値が高かった。このように、ゴール型種目やネット型種目がほとんどの項目で高い値を示しており、過去に球技をしていた経験が影響している可能性が考えられる。また、運動部活動に所属していた教員は、体育の重要性の認識や運動に対する意識が高く、研修に参加している割合や、参加しようとする意欲も高いことが明らかになった。

6)「体育授業や運動指導に関する意識」に関するまとめ

「体育授業や運動指導に関する意識」に関しては、全体的に高い値を示した。特に、体育の重要性や運動や体育に対する意識については非常に高かった。加えて、教職歴の長い教員や、男性教員、体育部の所属年数が長い教員や運動部活動経験のある教員において意識に関する値が高い傾向にあった。

しかし、体育授業や指導に関する理解や、体育の研修への参加に関する数値が低かったことから、体育の研修の機会を充実させることが課題であると言える。

3. 体育部に所属する教員の「体育指導の方法」

小学校体育連盟に所属している教員の「体育指導の方法」の実態について、「体育授業や運動指導に関する意識」の調査と同様に比較検討を行った。その結果は表10の通りである。「学習評価」(1.92)と「めあての確認」(2.48)の項目を除いた残りの項目はすべて中央値(2.50)以上であり、小学校体育連盟に所属している教員の体育授業への評価が高いことが分かる。特に、「意欲的学習」(3.30)の項目や「私はボール運動及びゲームを苦手とする児童に対して、積極的に声をかけるように努めている」(3.66)、「私は、ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っている」(3.54)の質問項目において高い値を示した。このことから、体育部に所属する教員は教師の相互作用やボール運動及びゲームが苦手な子への対応に対する評価は高く、重要視していると考えられる。一方、単元計画やめあての確認、学習評価の値は低いことから、授業の評価法に関して困難性を感じていることがわかる。

1) 教職歴別による特徴

教職歴による「体育指導の方法」の特徴を検討するため、項目ごとに比較を行った。その結果を表11に示す。「授業の勢い」の項目の平均値は、10年未満の教員（2.98）に対し、10年以上20年未満の教員（3.30）の数値が高かった。また、「総合評価」の「私のボール運動及びゲームの授業は、『よい体育授業』である」の質問項目の平均値は、10年未満の教員（2.33）に対し、10年以上20年未満の教員（2.76）と30年以上の教員（2.80）の数値が高かった。加えて、「学習評価」の「私は、毎時間、評価簿を記入している」の質問項目の平均値は、10年未満の教員（1.70）に対し、30年以上の教員（2.24）の数値が高かった。30年以上の教員や10年以上20年未満の教員と10年未満の教員は多くの項目において大きく差があった。特に「分かりやすい説明」や「評価簿」において大きな差が表れ、このようなことに対して10年未満の教員が困難性を感じていることが分かる。

2) 男女別による特徴

性別による「体育指導の方法」の特徴を検討するため、質問項目ごとに比較を行った。その結果を表12に示す。主に「授業計画」、「意欲的学習」、「効果的学習」、「総合評価」の項目において女性教員よりも男性教員が高い値を示し

た。意識だけではなく実際の体育指導に関しても男性教員は高い値を示し、特に「意欲的学習」や「効果的学習」で大きな差がみられ、性別での困難性の違いが表れた。

3) 体育専攻の有無別による特徴

大学で体育専攻の有無別による「体育指導の方法」の特徴を検討するため、質問項目ごとに比較を行った。その結果を表13に示す。「学習環境」の項目とその中の「私は、楽しく学習できるような運動（教材、場づくり、学習課題）を用意している」の質問項目において体育を専攻していなかった教員（3.02）より専攻していた教員（3.31）の数値が高かった。また、「教師の相互作用」の中の「私は、ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っている」「私は、適切な助言を積極的に与えている」の質問項目で体育を専攻していなかった教員より専攻していた教員の方が高かった。また、「意欲的学習」の項目の中の「私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが意欲的に学習に取り組んでいる」の質問項目で体育を専攻していなかった教員より専攻していた教員の数値が高かった。どの項目においても体育を専攻していた教員が高い値を示し、専攻の有無と指導の困難性の関係が深いことがうかがえる。

表11. 教職歴別による項目の比較

	①10年未満	②10年以上 20年未満	③20年以上 30年未満	④30年以上	F値	多重比較
授業計画	3.01(0.44)	3.24(0.46)	3.13(0.46)	3.14(0.51)	1.94	
私は、分かりやすい説明を行っている。	2.48(0.62)	2.97(0.56)	2.93(0.46)	2.96(0.68)	6.96 *	①<②③④
教師の相互作用	3.27(0.43)	3.37(0.43)	3.29(0.47)	3.24(0.53)	0.42 *	①<④
授業の勢い	2.98(0.46)	3.30(0.52)	3.22(0.51)	3.09(0.55)	3.00 *	①<②
私のボール運動及びゲームの授業では、授業の約束が守られている。	3.28(0.52)	3.60(0.50)	3.47(0.64)	3.28(0.61)	2.70 *	①<②
私のボール運動及びゲームの授業では、授業の場面展開がスムーズに行われている。	2.64(0.68)	3.07(0.69)	3.13(0.64)	2.88(0.60)	4.01 *	①<②
総合評価	2.35(0.66)	2.76(0.58)	2.60(0.63)	2.84(0.47)	5.12 *	①<②④
私のボール運動及びゲームの授業は、「よい体育授業」である。	2.33(0.66)	2.76(0.58)	2.60(0.63)	2.80(0.50)	5.12 *	①<②④
苦手な子への対応	3.15(0.38)	3.37(0.37)	3.20(0.45)	3.28(0.48)	2.18 *	①<④
学習評価	1.70(0.59)	2.03(0.76)	2.07(0.88)	2.28(0.84)	3.96 *	①<④
私は、毎時間、評価簿を記入している。	1.70(0.59)	2.03(0.77)	2.07(0.88)	2.24(0.83)	3.96 *	①<④

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

4) 体育部の所属年数別による特徴

体育部の所属年数別による「体育指導の方法」の特徴を検討するために、質問項目ごとに比較を行った。その結果を表14に示す。「授業計画」の項目の中の「私は、分かりやすい説明を行っている」の平均値は、若手教員 (2.53) に対し、20年以上30年未満の教員 (3.00), 30年以上の教員 (3.05) の数値が高かった。「私は、適切な助言を積極的に与えている」の平均値は、若手教員 (2.77) に対し、30年以上の教員 (3.25) の数値が高かった。また、「学習環境」の項目の中の「私は、学習成果を生み出すような運動 (教材, 場づくり, 学習課題) を用意してい

る」の平均値は、10年未満の教員 (2.79) に対し、30年以上の教員 (3.26) の数値が高かった。また、「授業の勢い」の項目の中の「私のボール運動及びゲームの授業では、授業の場面展開がスムーズに行われている」の平均値は、10年未満の教員 (2.69) に対し、10年以上20年未満の教員 (3.12) の数値が高かった。また、「総合評価」の項目の「私のボール運動及びゲームの授業は、『よい体育授業』である」の平均値は、10年未満の教員 (2.36) に対し、10年以上20年未満の教員 (2.76) と30年以上の教員 (2.79) の数値が高かった。また、「学習評価」の項目の中の「私は、毎時間、評価簿を記入している」

表12. 男女別による項目の比較

	男	女	t値
授業計画	3.17 (0.41)	2.95 (0.50)	2.51 *
私は、準備や片付けを工夫している。	2.92 (0.65)	2.62 (0.82)	2.10 *
私は、学習目標をはっきり設定している。	3.17 (0.69)	2.95 (0.61)	1.87 *
私は、分かりやすい説明を行っている。	2.80 (0.62)	2.56 (0.68)	1.98 *
学習環境	2.95 (0.48)	2.84 (0.57)	1.15
私は、楽しく学習できるような運動 (教材, 場づくり, 学習課題) を用意している。	3.26 (0.61)	3.00 (0.56)	2.37 *
教師の相互作用	3.31 (0.46)	3.26 (0.41)	0.56
私は、適切な助言を積極的に与えている。	2.97 (0.56)	2.69 (0.69)	2.19 *
意欲的学習	3.37 (0.47)	3.13 (0.47)	2.63 *
私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが意欲的に学習に取り組んでいる。	3.45 (0.52)	3.23 (0.43)	2.46 *
私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが自ら進んで学習している。	3.25 (0.59)	2.92 (0.62)	2.87 *
効果的学習	3.02 (0.50)	2.78 (0.59)	2.40 *
私のボール運動及びゲームの授業では、子どもの上達していく姿がみられる。	3.21 (0.57)	3.00 (0.52)	2.01 *
私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが何を学習し、何を身につけようとしているのかがよく分かる。	2.80 (0.70)	2.44 (0.72)	2.74 *
授業の勢い	3.13 (0.50)	3.03 (0.55)	1.02
私のボール運動及びゲームの授業では、授業の場面展開がスムーズに行われている。	2.90 (0.63)	2.69 (0.80)	1.46 *
総合評価	2.65 (0.57)	2.37 (0.75)	2.13 *
私のボール運動及びゲームの授業は、『よい体育授業』である。	2.63 (0.57)	2.37 (0.75)	2.13 *

*p<.05 () 内は標準偏差を示す。

表13. 大学での体育専攻の有無別による項目の比較

	専攻あり	専攻なし	t値
学習環境	2.99 (0.51)	2.81 (0.50)	2.00 *
私は、楽しく学習できるような運動 (教材, 場づくり, 学習課題) を用意している。	3.31 (0.57)	3.02 (0.62)	2.70 *
教師の相互作用	3.34 (0.45)	3.22 (0.45)	1.56
私は、ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っている。	3.61 (0.52)	3.44 (0.63)	1.70 *
私は、適切な助言を積極的に与えている。	3.00 (0.64)	2.75 (0.55)	2.38 *
意欲的学習	3.34 (0.49)	3.24 (0.46)	1.18
私のボール運動及びゲームの授業では、子どもが意欲的に学習に取り組んでいる。	3.45 (0.50)	3.29 (0.50)	1.83 *

*p<.05 () 内は標準偏差を示す。

表14. 体育部の所属年数別による項目の比較

	①10年未満	②10年以上 20年未満	③20年以上 30年未満	④30年以上	F値	多重比較
授業計画	3.05(0.44)	3.21(0.38)	3.13(0.49)	3.15(0.53)	0.92	
私は、分かりやすい説明を行っている。	2.53(0.68)	2.88(0.52)	3.00(0.63)	3.05(0.85)	5.94 *	①<③④
学習環境	2.88(0.49)	2.92(0.46)	2.88(0.58)	3.09(0.58)	0.90	
私は、学習成果を生み出すような運動(教材、場づくり、学習課題)を用意している。	2.79(0.66)	3.00(0.69)	3.00(0.63)	3.26(0.65)	2.88 *	①<④
教師の相互作用	3.28(0.43)	3.35(0.38)	3.36(0.57)	3.21(0.50)	0.46	
私は、適切な助言を積極的に与えている。	2.74(0.63)	2.96(0.66)	3.00(0.52)	3.21(0.42)	3.53 *	①<④
授業の勢い	3.01(0.48)	3.29(0.51)	3.31(0.55)	3.04(0.50)	3.26	
私のボール運動及びゲームの授業では、授業の場面展開がスムーズに行われている。	2.69(0.69)	3.12(0.70)	3.06(0.68)	2.84(0.60)	3.28 *	①<②
総合評価	2.38(0.64)	2.76(0.60)	2.75(0.58)	2.84(0.50)	4.70 *	①<②④
私のボール運動及びゲームの授業は、「よい体育授業」である。	2.36(0.64)	2.76(0.60)	2.75(0.58)	2.79(0.54)	4.70 *	①<②④
学習評価	1.74(0.61)	1.96(0.82)	2.06(0.77)	2.42(0.84)	4.86 *	①<④
私は、毎時間、評価簿を記入している。	1.74(0.61)	1.96(0.82)	2.06(0.77)	2.42(0.84)	4.86 *	①<④

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

表15. 学生時代の部活動別による項目の比較

	①ゴール型	②ネット型	③ベース ボール型	④その他 運動部	⑤文化部 またはなし	F値	多重比較
単元計画	2.77(0.82)	2.55(0.57)	2.45(0.61)	2.77(0.64)	2.11(0.86)	2.51	
私は、単元計画を作成して授業を行っている。	2.88(0.93)	2.61(0.62)	2.39(0.63)	2.73(0.64)	2.00(1.00)	3.40 *	⑤<①
授業計画	3.15(0.42)	3.16(0.44)	3.06(0.49)	3.13(0.42)	2.78(0.51)	1.47	
私は子どもが体を動かす時間を多くとっている。	3.64(0.55)	3.64(0.49)	3.54(0.58)	3.80(0.41)	3.22(0.67)	2.42 *	⑤<④
学習環境	3.01(0.46)	2.88(0.46)	2.92(0.61)	2.98(0.48)	2.48(0.41)	2.15 *	⑤<①
苦手な子への対応	3.35(0.38)	3.31(0.36)	3.18(0.71)	3.18(0.43)	2.81(0.48)	3.84 *	⑤<①②
私は、運動が苦手な児童も楽しく活動ができるように心がけている。	3.55(0.51)	3.58(0.50)	3.43(0.57)	3.40(0.56)	2.89(0.60)	3.22 *	⑤<①②

*p<.05 ()内は標準偏差を示す。

の平均値は、10年未満の教員(1.74)に対し、30年以上の教員(2.42)の数値が高かった。

ボール運動及びゲームの授業における分かりやすい説明や学習成果を生み出す運動や助言、学習評価について特に10年未満の教員と30年以上の教員に大きく差があった。30年以上の教員がこれらのことに特に重点を置いて取り組んでおり、10年未満の教員は、これらのことに難しさを感じていることが分かる。授業の勢いに関しては、教職歴と同様の傾向が見られたことが明らかになった。

5) 学生時代の部活動別による特徴

学生時代に3年以上所属していた部活動別による「体育指導の方法」の特徴を検討するため、項目ごとに比較を行った。その結果を表15に示す。「単元計画」の項目の中の「私は、単

元計画を作成して授業を行っている」の平均値は、文化部または無し(2.00)に対し、ゴール型(2.88)の数値が高かった。また、「苦手な子への対応」の項目の平均値は、文化部または無し(2.81)に対し、ゴール型(3.35)とネット型(3.31)の数値が高かった。この項目に関しては特に大きな差が見られた。また、「私は子どもが体を動かす時間を多くとっている。」項目に関して、その他の運動部(3.80)が文化部または無し(3.22)に対して差が見られた。これらのことから、運動部活動経験が指導の際に重点に置いているポイントが異なっている可能性が示唆された。この点を踏まえると、ボール運動及びゲームを行う際にどの点に重点をおくべきかに困難性を感じていると考えられる。

6) 「体育指導の方法」に関するまとめ

指導に関しては、教職歴の長い教員や、男性、体育部の所属年数が長い教員や運動部活動経験のある教員において指導の評価に関する値が高い傾向にあった。意欲的学習に関しては、全体的に高く、子どもたちが意欲を持てるような活動を工夫していることが分かる。しかしながら、授業中の子どもへの関わりや運動が苦手な子どもへの配慮、子ども同士の関わりは意識しているが、単元計画や学習環境やめあての確認、学習評価など授業を構成する上で必要な項目においては全体的に低い値を示し、体育部に所属している教員はこれらのことに指導の困難性を感じていることがうかがえる。他の教員と比べると低い値を示していた教職歴の浅い教員は、分かりやすい説明や評価簿について、女性教員は、意欲的学習や効果的学習について、運動部活動未経験の教員は苦手な子どもへの対応について困難性を感じていることが分かった。

IV. まとめ

本研究では、香川県内の小学校体育連盟に所属しているT市及びM市の体育部の教員がボール運動及びゲームの授業の、どのようなことに困難性を感じているかについて質問紙調査を実施し、「教職歴」「性別」「大学での体育専攻の有無」「体育部に属している年数」「中学校、高校、大学を通して3年以上所属していた部活動」の項目において比較を行った。研究の結果、T市とM市の小学校体育連盟に所属する教員は全体的に体育授業や運動に対する意識を高く持っていることが分かった。しかしその一方で、授業中の子どもへの関わりや運動が苦手な子どもへの配慮、子ども同士の関わりは重要視しているが、単元計画や学習環境、めあての確認、学習評価など授業を構成する上で必要な項目において困難性を感じている教員が多いことがうかがえた。そして、教職歴の長い教員や体育部の所属が長い教員、学生時代に体育を専攻してきた教員や男性教員、過去に運動部活動を経験していた教員は、ボール運動及びゲームの

体育授業の意識や自らの指導への評価が高い傾向にあり、研修への参加意欲や実際の参加率も高いことが明らかになった。これらの教員は困難性を感じにくい可能性がうかがえた。他方、これらの教員と比べ、低い値を示していた教職歴の浅い教員は、分かりやすい説明や評価簿について、女性教員は、意欲的学習や効果的学習について、運動部活動未経験の教員は苦手な子どもへの対応について困難性を感じていることが分かった。

V. 解決すべき点

研究結果を踏まえ、以下に解決すべき点を提案する。

- ①教職歴が少ない10年未満の教員は「授業の勢い」に体育の指導法に関する課題が認められた。「授業の勢い」を向上させるためには、授業の中でマネジメント場面を少なくすることが良いとされている(福ヶ迫, 2010)。このことから、10年未満の教員に対しては授業の中でのマネジメント方略を指導することが有効だと考えられる。
- ②女性教員は「体育指導・運動指導に関する理解」に関する値が低いことから、「授業計画」や「意欲的学習」に関する指導を行うことが有効であることが示唆された。具体的には学習形態(一斉指導やグループ学習など)を工夫するなどが考えられる。
- ③体育を専攻していない教員に対しては「学習環境の設定方法」や「教師の相互作用行動」の種類と効果に関する指導を行う必要があることがわかった。例えば、集合させる場所は児童が教師の話に集中できるように教師の後方には太陽が来ないようにする、説明で用いる図と実際に児童が動く環境にズレがないようにするなどが「学習環境の設定」の方略だと考えられる。
- ④体育部の所属年数の少ない教員に関しては、「授業計画」「学習環境」「授業の勢い」などの項目の値も低くなっているため、①～③で示した方略を用いて指導することが求められ

ることがわかった。

- ⑤文化部や部活動に所属していなかった教員に関しては、特に「苦手な子への対応」の数値が低かったことから、意識的に体育の苦手な子に対して働きかけることの重要性について指導する必要があると考えられる。

VI. 今後の研究課題

本研究の対象者は小体連に所属している教員のみであり、所属していない教員がボール運動及びゲームの指導にどのような困難性を感じているのかが明らかになっていない。また、本研究は教員の属性の比較のみにとどまっているが、項目間の点数に関して相関関係を検討することでより実用的なデータになると考えられる。さらに、本研究が行われたのは、2017年であり、告示された小学校学習指導要領へ完全移行する前である。そのためボール運動及びゲームの困難性については全面実施となる2020年に再び調査を行うことで、新学習指導要領を考慮したものと比較検討することができる。

引用・参考文献

- 福ヶ迫善彦 (2010). “マネジメント方略”. 新版体育科教育学入門. 大修館書店. 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖 (編) : pp.98-103
- 日野克博・高橋健夫・伊興田賢・長谷川悦示・深見英一郎 (1996). 体育授業観察チェックリストの有効性に関する検討；特に子どもの形成的授業評価との相関関係分析を通して. スポーツ教育学研究. 16 (2) : pp.113-124
- 文部科学省. 学校体育実技指導資料第8集「ゲーム及びボール運動」第1章. 体育学習における「ゲーム及びボール運動」領域
- 文部科学省. 児童生徒の学習評価の在り方について (報告)
- 仲山正志・松浦靖典・北川隆 (2008). ボール運動における「空きスペース意識づけ」を目指したタスクゲームの事例研究. 体育授業研究. 11 : pp.35-40
- 小河内淳司・坂下昇次・中村和彦・植屋清見 (1999).

小学校教師の体育および体育の授業に対する価値. 教材研究に関する研究. 日本体育学会大会号. 50 : pp.769

- 鬼澤陽子・安原志帆・内藤年伸 (2016). 「小学校の体育授業の充実を目指した基礎的研究」群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編. 52 : pp.71-86
- 大貫耕一 (2008). 小学生低学年体育における教科内容の検討2. 体育授業研究. 11 : pp.41-51
- 大友智・群馬県小学校体育研究会調査委員会 (2006). 群馬県における小学校体育授業に関する基礎的研究；高学年を対象にして. 群馬の学校体育. 52 : pp.33-47
- 大友智編 (2007). 小学校における体育授業プログラムの開発；ゲーム領域及びボール運動領域を対象として. 教育改革・群馬プロジェクト 国立大学法人群馬大学・群馬県教育委員会 共同研究第一部会 特色ある教育課程の開発 体育グループ 平成16年度～平成18年度研究 成果報告書
- 高橋健夫・長谷川悦示・日野克博・浦井孝夫 (1996). 体育授業観察チェックリスト作成の試み；観察者の評価観点の構造を手掛かりに. 体育学研究. 41 : pp.181-191
- 2009年度東京大会報告 第13回体育授業研究会東京大会・研究企画報告 「これからのボール運動・球技の授業づくり」報告書